

空気を綺麗にする夢のパッケージ

金坂 良一（かねさか よしかず／カネパッケージ株式会社 代表取締役社長）

【事業概要】

私どもの会社は、梱包材の設計開発を通じ、お客様に梱包材をお届けしています。特に、コンピュータ、デジタルカメラ、医療機器、分析器のような搬送中に衝撃を好まない商品の梱包材を中心に提案しております。会長の兼平作太郎が1976年から操業を開始し、現在日本、フィリピン、ベトナム、中国、タイ、インドネシアの6カ国で、15拠点で事業を展開しております。

【コア技術…包む技術】

当社のコア技術は、梱包材中でも緩衝設計を得意としており、短い緩衝距離で、如何にお客様の大切な製品を守るかと言う「緩衝設計技術」を駆使し、最小の容積、最軽量の梱包材をご提案しております。これにより、省資源化、梱包材のコスト削減、物流コストの削減、輸送効率のUP、製造工程及び輸送に伴うCO₂の大幅な削減が可能となります。

加えて、直接素材の製造設備を持たないファブレスでのオペレーションを実現している事から、化石燃料を使用した素材にとらわれる事無く、環境のマクロの視野に立った環境に優しい再生可能な資源を、最小限使用して梱包材をお届けしています。



<究極の段ボール緩衝⇒生卵を200mの高さ落下から保護>

【梱包材と環境】

当社の取り組みは、コア技術を駆使した梱包材のダウンサイジング、省資源化、3R（リサイクル、リターナブル、リユース）を積極的に行っています。常に限界に挑戦し、梱中に入る製品の大きさは同じでも、梱包サイズを50%削減するような事

も実現しております。

とは言え、一般的な梱包材のイメージは、「ゴミになる」「一回使ったら捨てられる」などで、決して環境にいいイメージではないのが現状でした。

そこで、当社が以前から進めているCSR活動のなかのマングローブ植林を積極的に行い、エビの養殖で破壊された「マングローブ林の再生」と当社のオペレーションを通じて排出する「CO₂のオフセット」を全面的に打ち出すことにしました。当社全グループの売上の0.1%をこの植林活動に充てています。

【社内の意識の変化…意識改革へ】

当初は、社内から「うちのような中小企業がマングローブ植林のような社会貢献活動はダメだ」と猛反対を受けました。ところが、このマングローブの植林が、参加した従業員を大きく変えてくれました。それは、各国の拠点から参加してくれた従業員が、マングローブ植林を体験した感動を共有し、言葉の通じない国々の人たちが一体感を持ち始め、従業員のモチベーションと当社の価値の再認識が想像以上に大きく功を奏してきました。もう既に植林のイベントは10回を超え、回を重ねるごとに、その感動の輪が広がり、今では「また行きたい」と言う従業員だけではなく、その感動に共感して頂いたお客様やお知り合いの方々も積極的に参加して頂くようになりました。

苦労を共にし、達成感を味わい、感動と価値観を共有する事で、大きく従業員一人一人が、環境に対する思いとその重要性、そして当社が取り組んでいる環境改善活動に、心から賛同してくれるようになりました。

また、マングローブ植林基金自動販売機を日本ペプシコーラ（現：サントリー）様にご協力して頂き、多数のお客様に設置して頂きました。100円のジュースを買うと10円マングローブ植林の基金となり、10本分のジュースで1本のマングローブを植林するという形で協賛して頂いています。1年間で50台と言うハイペースで、皆様に設置ご協力頂きました。実際にマングローブの植林に行かなくても、普段の生活の中から自然に植林出来る仕組みが出来ました。

【植林実績】

お陰さまで、このような実績となりました。（2013年5月現在）

- ▶植林本数 3,724,988本
- ▶植林面積 109.4ヘクタール（東京ドーム23個分）

【植林活動による効果】

マングローブ植林による効果は、マングローブ林の再生に始まり、CO₂の吸収と酸素の創出、海岸線の浸食からの保護、津波防御林としての役割、水質浄化、魚介類の産卵繁殖促進、渡り鳥の食料補給基地等々の複合的な役割を果たしています。

私たちは、単に植林の本数を増やすだけでなく、実際の自然の生態系に有った形で植林を行っています。あるマングローブの種だけを植えすぎると稀少種の絶滅を招く可能性があります。そのため、埼玉大学と連携して、生態系の調和を保ちつつ、その植林する島に与える自然環境、経済環境への影響を綿密に調査しながら、実施しています。また、植林をしている島が、商業用の開発や伐採の危険から守られている自然保護区のなかで行っているため、他に産業も無く漁業だけが収入源です。マングローブ植林に携わって頂く労働力として、そこに住んでいる島民の皆さんの雇用と安定した現金収入を創出しています。

実は、マングローブ植林は、植林して終わりと言う訳では有りません。植林した後、植えた種が着床して育って行く為のメンテナンス保全を行って行く必要が有ります。現在370万本の着床と成長の保全を100ヘクタールに渡り、毎週行っています。そこにも、島民の皆さんの協力が労働力として必要となってきます。

【私たちが残せるもの】

マングローブの植林に行って、大きな感動の一つに、貧しい島の子供たちの純真で満面の笑顔です。始めはにかんではいますが、一緒に植林する浅瀬に入るともう友達です。言葉なんていりません。何も持っていない子供たちの笑顔が、何でも持っている私たちの心を釘付けです。私たちが、忘れていた、純真で、素直な心が、目の前の綺麗な南国の海とマングローブとともに蘇ってきます。

その笑顔に、人としての心を思い出させてくれた純真な子供たちに何かを残したい…。そして、私たちは、学校の校舎を寄付することにしました。一つは、最初に植林を始めたオランゴ島に、もう

一つは、バナコン島に。今迄、ヤシの木陰や、教会の空いている時間で勉強していた子供たちが、雨の日も心配しないで、喜んで学校に来て勉強出来るようになりました。子供が、学校に行けるようになりお母様方も家事や他の用事も出来るように。この子供たちが一生懸命勉強し、大きくなって、将来私たちの会社に働きに来てくれるようになったら、どんなにか素晴らしい事だろうと夢を馳せています。継続して島の宝である子供たちに教育と夢をとどけることが、私たちのささやかな贈り物になればと思います。

【環境：人と自然の調和】

素晴らしい自然のなかで、素晴らしい将来の有る子供たちを育て上げる事が出来たらどんなに素敵でしょう。自然が人の心を浄化し本当の心を蘇らせ、人の心が自然を大切にし、自然を守り、蘇らせていく…。こうして、本当の自然との共生が出来て行くことが、当社の環境への取り組みの将来の形に持って行きたいと思えます。

【包む】

私たちは、お客様の大切な商品を真心を込めて包んでいます。私たちの思いが、大切な心を包み、この限りある美しい地球の自然を包めるよう事業活動並びに環境活動に精進して行きたいと思えます。

